

# 各府省におけるハラスメント相談 に関する職員アンケート調査結果

令和6年7月

人 事 院

# 各府省におけるハラスメント相談に関する職員アンケート調査

## 調査目的

ハラスメント相談体制整備に関する今後の取組の検討に向けて実情把握

## 調査対象者

一般職の国家公務員3,000人(常勤職員2,000人、非常勤職員1,000人)

## 調査実施期間

2023年12月4日～2024年1月19日

## 回答総数

2,007人(常勤職員1,403人、非常勤職員604人)

注1:複数回答の質問に関しては、回答者数を分母として当該選択肢を選択した者の割合で算出している。

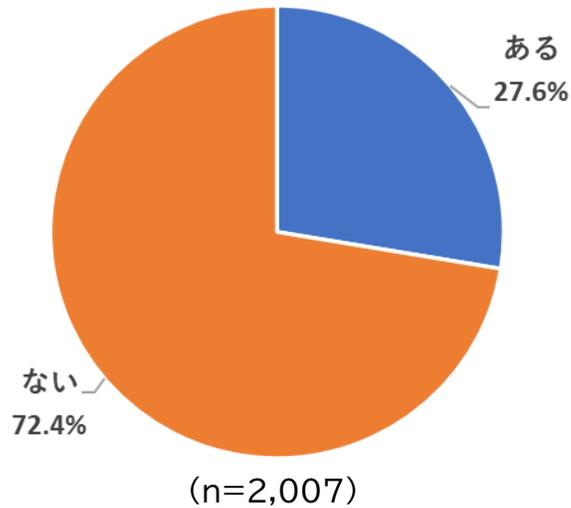
注2:端数処理の関係で総計が100%にならない場合がある。

# 1. ハラスメントを受けたと感じた又は見かけたことがある割合

## (1) ハラスメントを受けたと感じたことがある職員

ハラスメントを受けたと感じたことがある職員は、約3割。  
内容としては、「パワハラ(暴言)」が最多。誰から受けたかは、「上司」が最多。

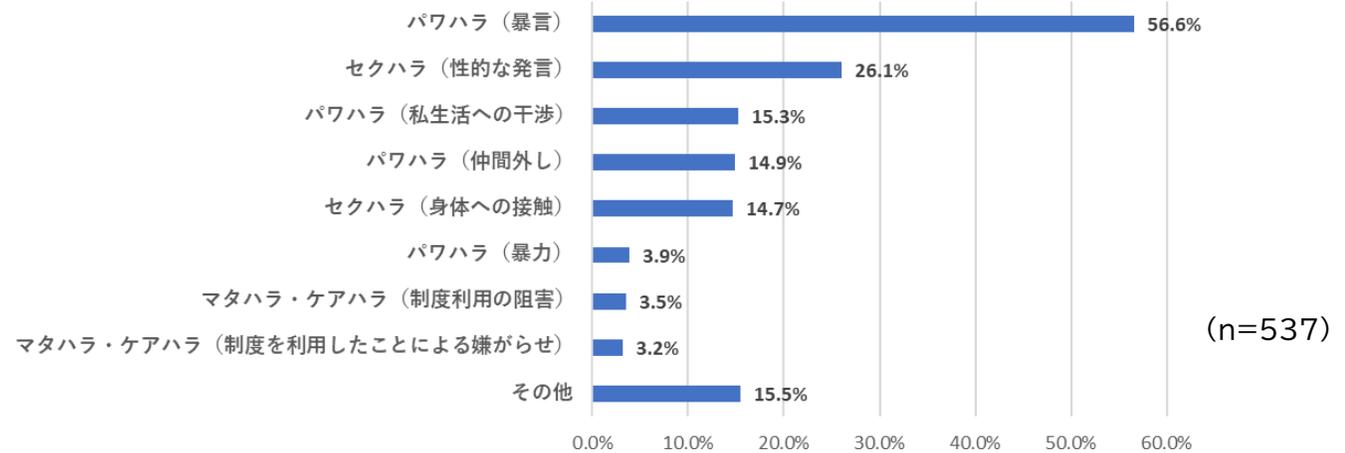
ハラスメントを受けたと感じたことがありますか。



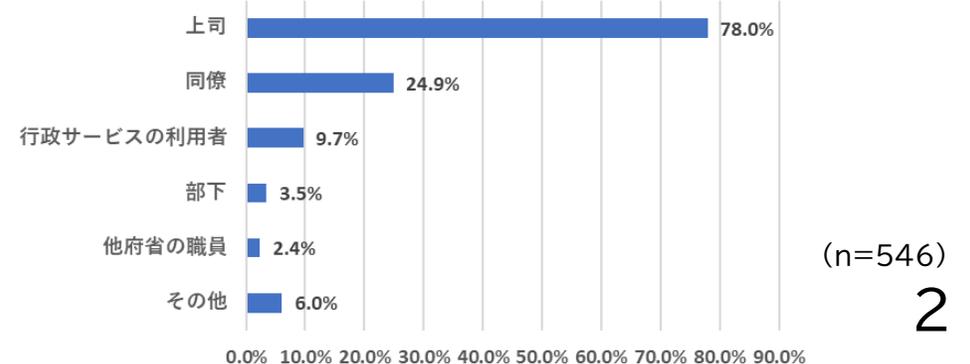
「ある」と回答した者

【属性別】(常勤職員・非常勤職員)  
・常勤職員のうち「ある」と回答した者は 30.0% (n=1,403)  
・非常勤職員のうち「ある」と回答した者は 22.0% (n=604)

どのようなハラスメントを受けましたか。(複数回答)



誰からハラスメントを受けましたか。(複数回答)



「受けたと感じたことがある」と回答したハラスメント内容を、職員の属性別に見ると、以下のとおり。

① 任用形態(常勤・非常勤)別

常勤職員、非常勤職員ともにパワハラ(暴言)(常勤:61.8%、非常勤:39.0%)が最多。

非常勤職員は、常勤職員に比べ、パワハラ(仲間外し)(25.2%)、パワハラ(私生活への干渉)(20.3%)が多い。

② 性別:男性職員は、パワハラ(暴言)(78.9%)が最多(女性職員(39.7%))。女性職員は、セクハラ(性的な発言)(41.4%)が最多(男性職員(5.3%))。

③ 年齢別:全ての年齢層で、パワハラ(暴言)が最多。特に50歳以上では、他の内容に比べ多い。

29歳以下は、他の年齢層に比べセクハラ(性的な発言)(39.4%)が多い。

【①任用形態別】

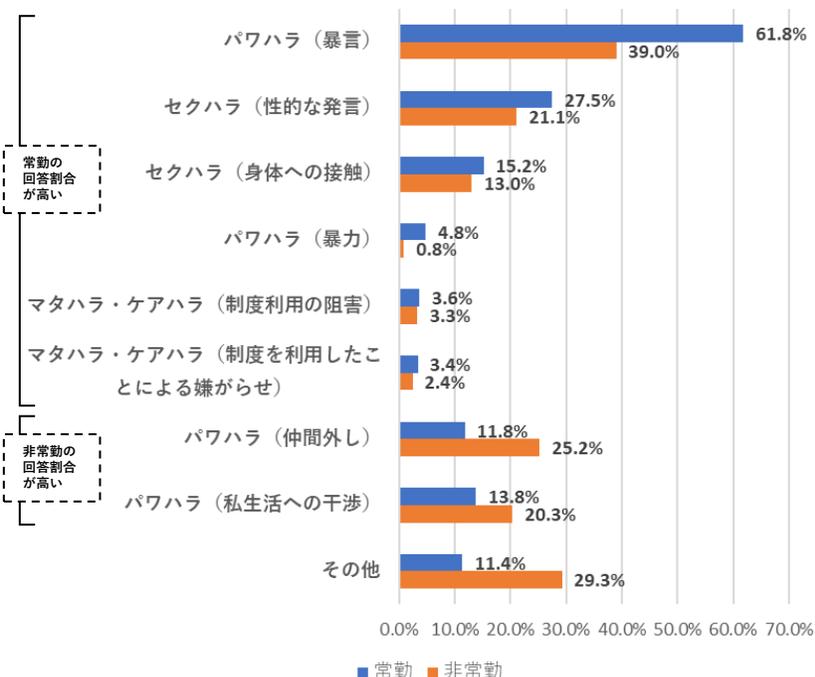
(複数回答)

【②性別】

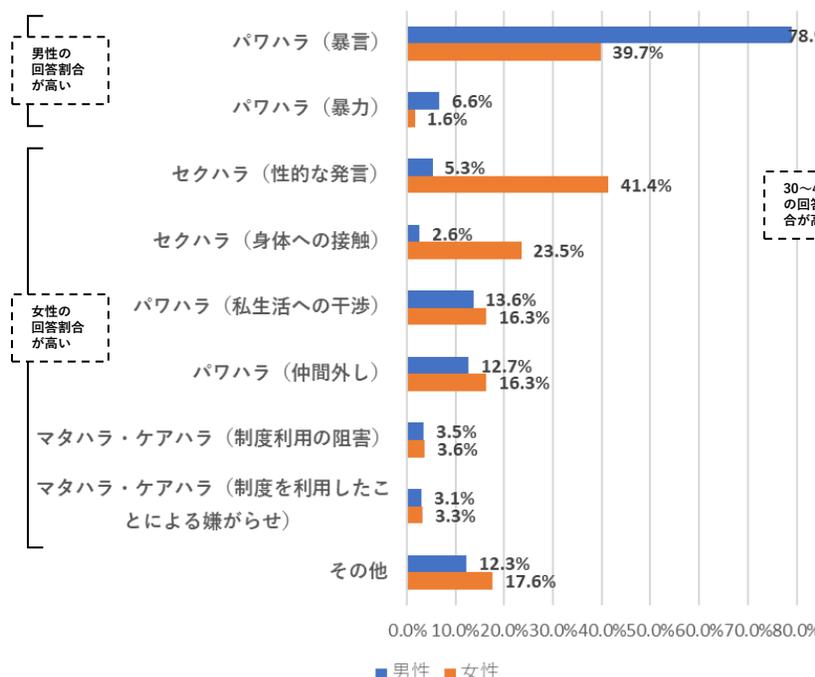
(複数回答)

【③年齢別】

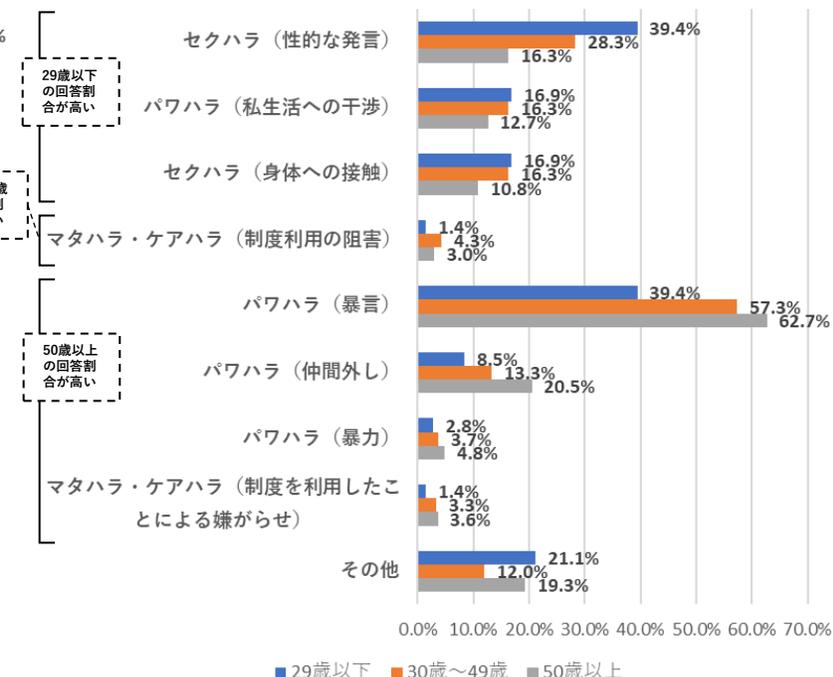
(複数回答)



(常勤職員:n=414、非常勤職員:n=123)



(男性職員:n=228、女性職員:n=307)



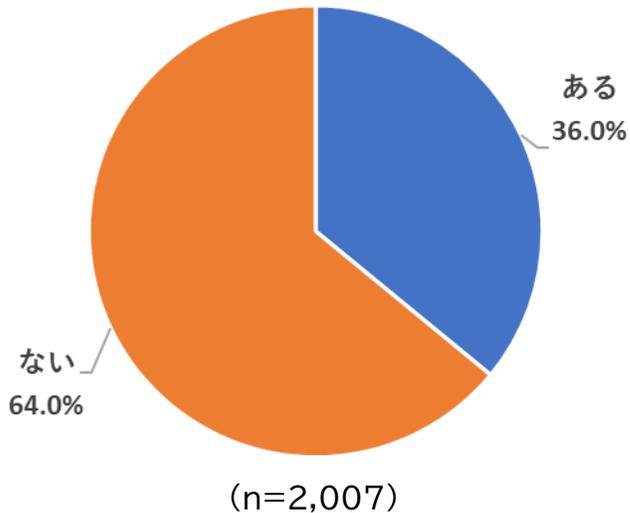
(29歳以下:n=71、30歳～49歳:n=300、50歳以上:n=166)

※上記グラフには、性別を「その他職員」として回答した2名を含んでいない。

## (2) ハラスメントと思われる行為を見かけたことがある職員

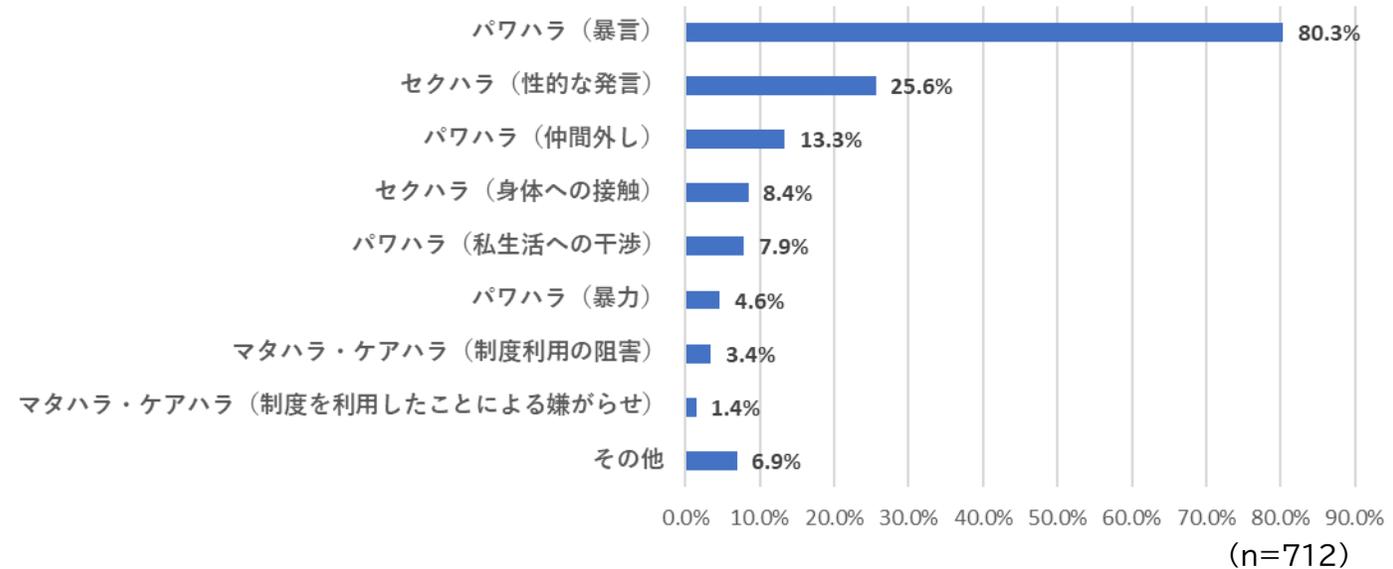
ハラスメントと思われる行為を見かけたことがある職員は約4割。  
内容としては「パワハラ(暴言)」(80.3%)が最多。

ハラスメントと思われる行為を見かけたことがありますか。



「ある」と回答した者

どのようなハラスメントを見かけましたか。(複数回答)



【属性別】(常勤職員・非常勤職員)

・常勤職員のうち「ある」と回答した者は 40.1% (n=1,403)

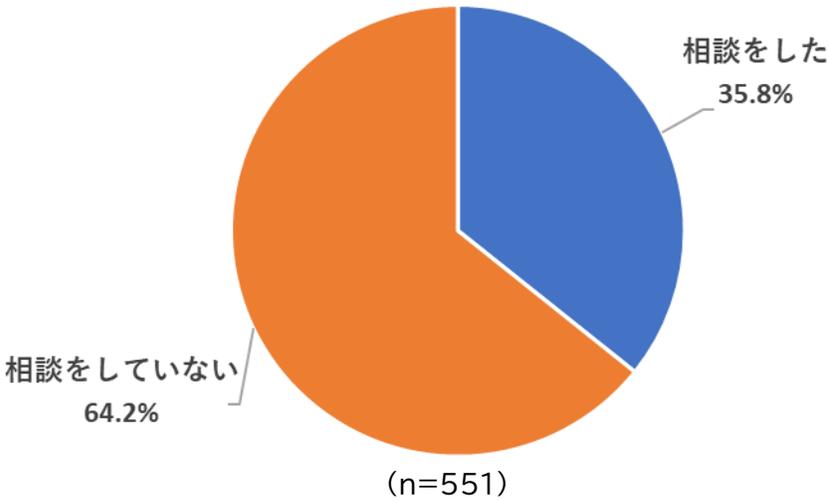
・非常勤職員のうち「ある」と回答した者は 26.3% (n=604)

## 2. 相談をした割合・相談先

### (1) ハラスメントを受けたと感じたことがある職員

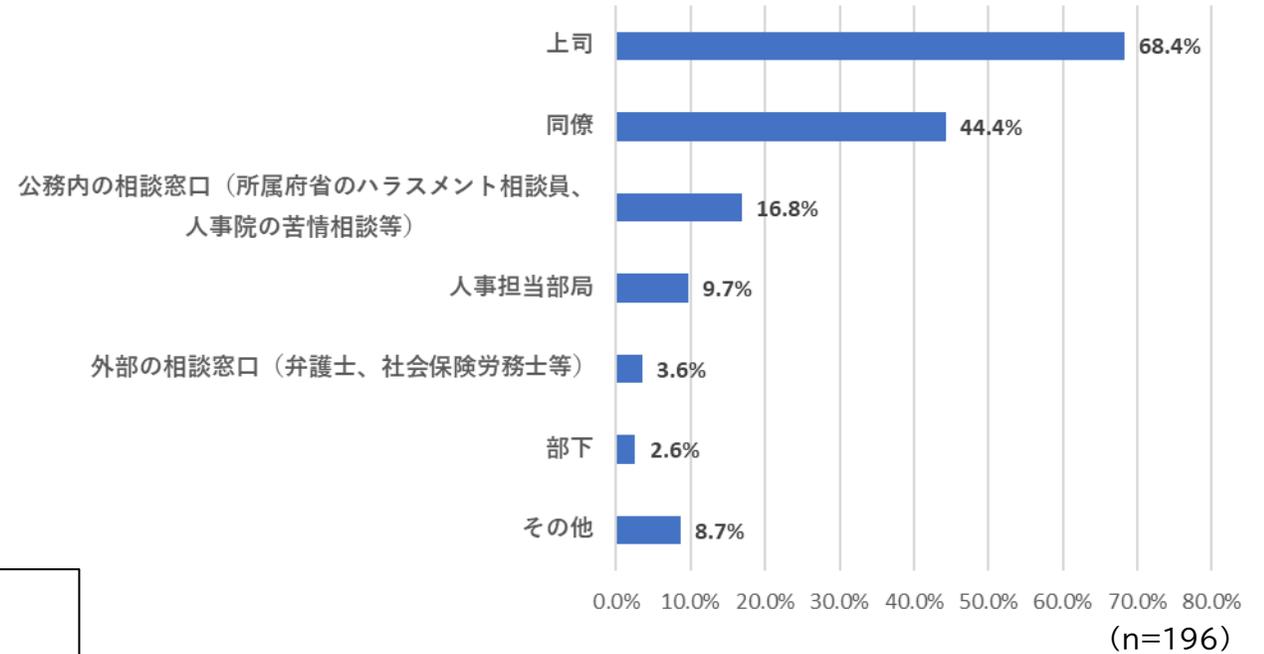
ハラスメントを受けたと感じたことがある職員のうち、相談をした職員は約4割。  
相談先は上司(68.4%)、同僚(44.4%)の順に多い。公務内の相談窓口は16.8%。

ハラスメントを受けたと感じたことが「ある」と回答した場合、相談をしましたか。



「相談をした」と回答した者

誰に相談しましたか。(複数回答)



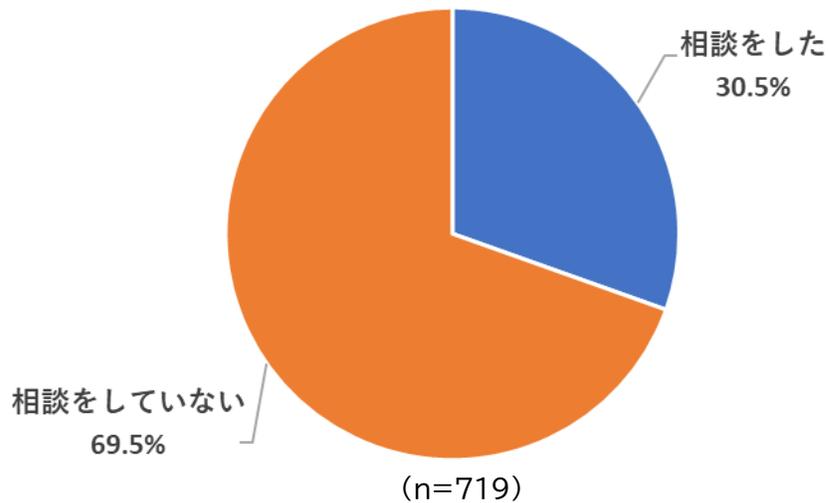
【属性別】(常勤職員・非常勤職員)

- ・「ある」と回答した常勤職員のうち「相談をした」と回答した者は 31.7% (n=420)
- ・「ある」と回答した非常勤職員のうち「相談をした」と回答した者は 48.9% (n=131)

## (2) ハラスメントと思われる行為を見かけたことがある職員

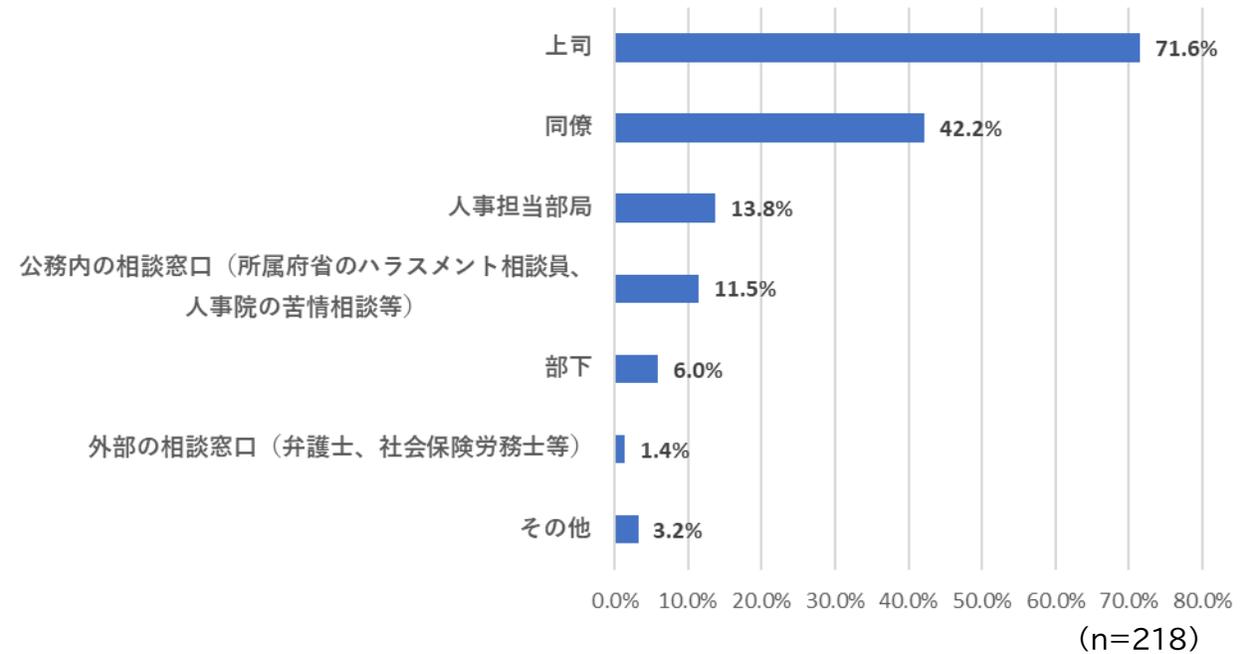
ハラスメントと思われる行為を見かけたことがある職員のうち、相談をした職員は約3割。相談先は上司(71.6%)、同僚(42.2%)の順に多い。公務内の相談窓口は11.5%。

ハラスメントと思われる行為を見かけたことが「ある」と回答した場合、相談をしましたか。



「相談をした」と回答した者

誰に相談しましたか。(複数回答)



【属性別】(常勤職員・非常勤職員)

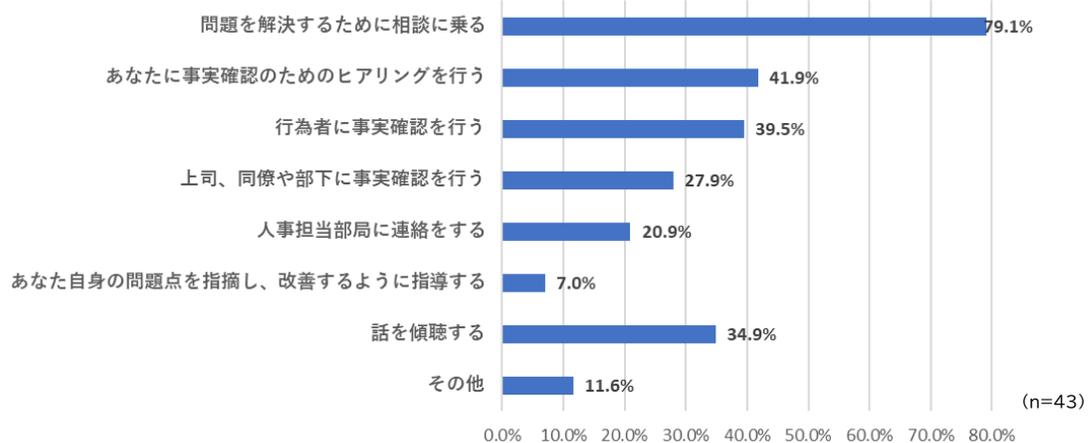
- ・「ある」と回答した常勤職員のうち「相談をした」と回答した者は 31.6% (n=560)
- ・「ある」と回答した非常勤職員のうち「相談をした」と回答した者は 26.4% (n=159)

# 3. 相談した職員が相談相手に望んだ対応及び実際の対応

「ハラスメントを受けたと感じたことがあり相談した」又は「ハラスメントを見かけたことがあり相談した」と回答した職員が、相談相手に望んだ対応は、いずれの相談先についても、「問題を解決するために相談に乗る」が最多。次いで公務内の相談窓口では「あなたに事実確認のためのヒアリングを行う」が、同以外では「話を傾聴する」、「行為者に事実確認を行う」が多い。相談相手が実際に行った対応は、いずれの相談先についても、「問題を解決するために相談に乗ってくれた」が最多で、次に「あなたに事実確認のためのヒアリングを行った」が多い。

相談相手に望んだ対応は何ですか。(複数回答)

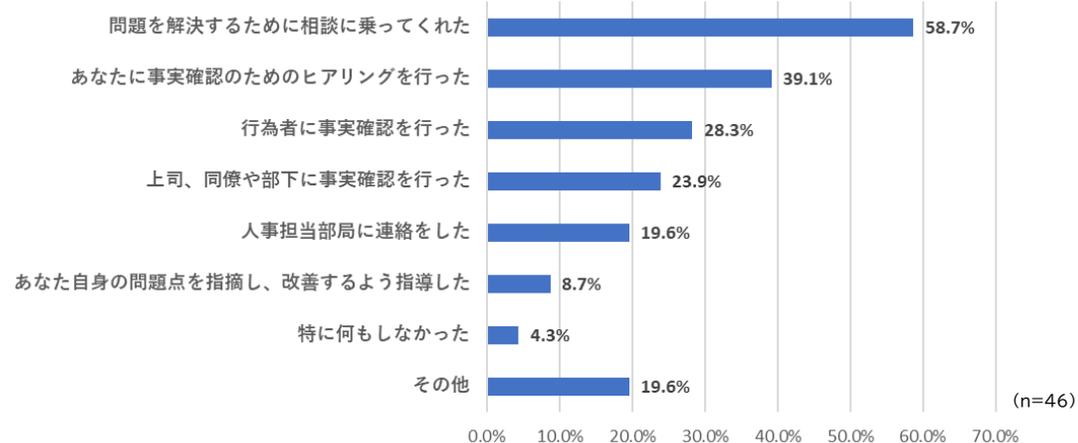
○公務内の相談窓口(所属府省のハラスメント相談員、人事院の苦情相談等)



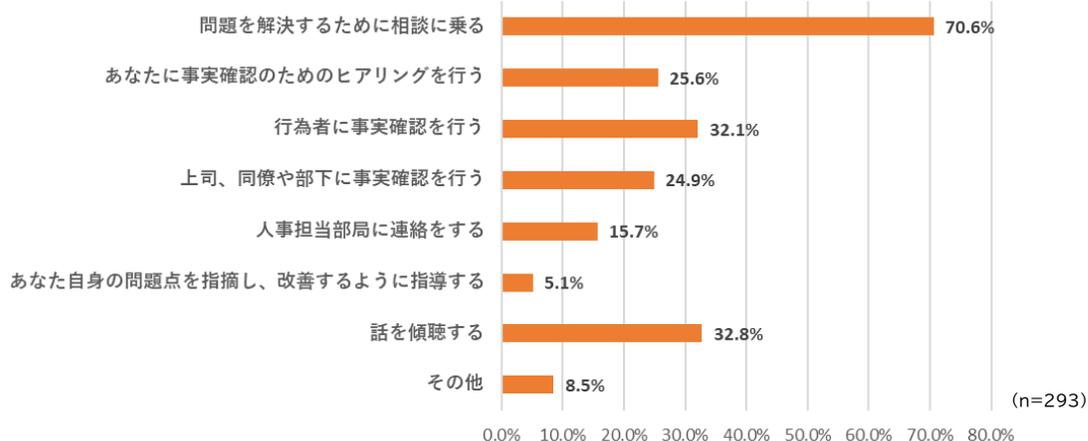
実際の対応

相談相手は実際にどのような対応を行いましたか。(複数回答)

○公務内の相談窓口(所属府省のハラスメント相談員、人事院の苦情相談等)

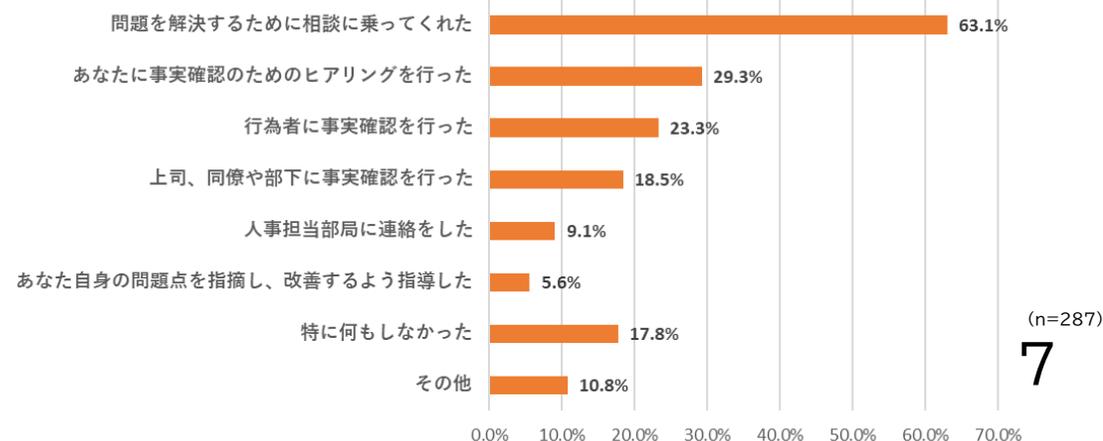


○公務内の相談窓口以外(上司、同僚、部下、人事担当部局、外部の相談窓口、その他)



実際の対応

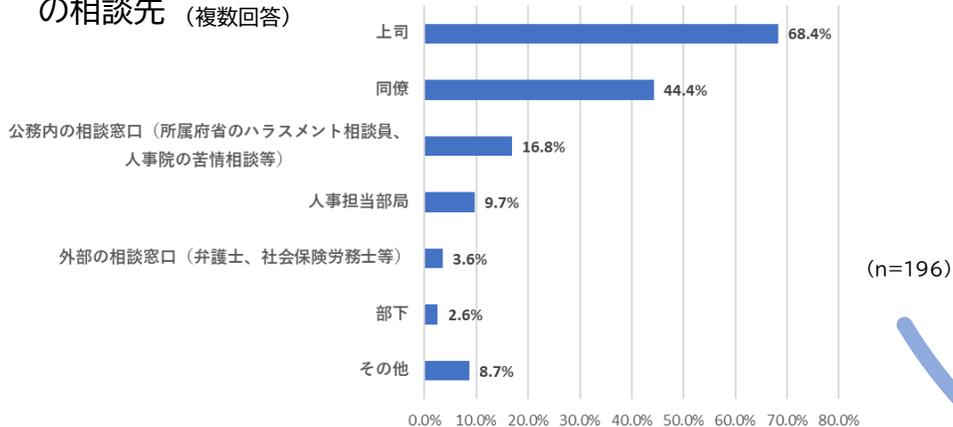
○公務内の相談窓口以外(上司、同僚、部下、人事担当部局、外部の相談窓口、その他)



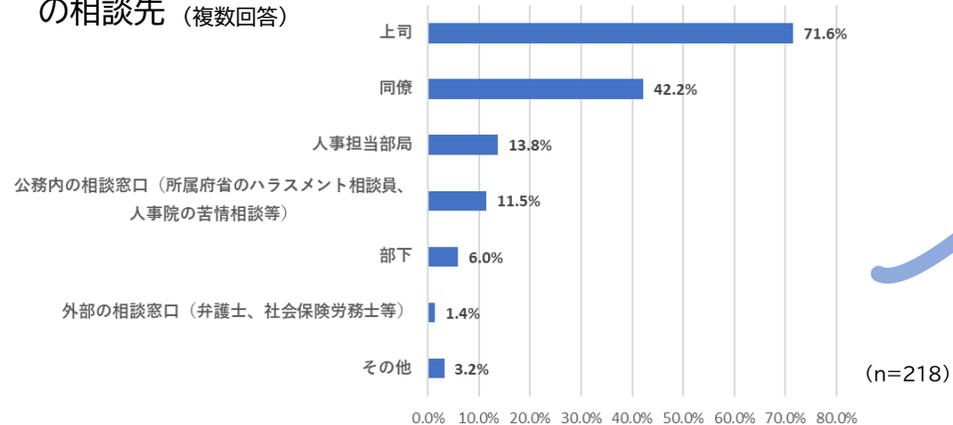
# 4. 相談先に公務内の窓口を選択しなかった理由

「ハラスメントを受けたと感じたことがあり相談をした」又は「ハラスメントと思われる行為を見かけたことがあり相談をした」と回答した職員のうち、「公務内の相談窓口」以外に相談した職員が、「公務内の相談窓口」を選択しなかった理由は、「相談窓口より身近な人の方が相談しやすいから」が最多。

【再掲】ハラスメントを受けたと感じたことがあり相談をした職員の相談先（複数回答）

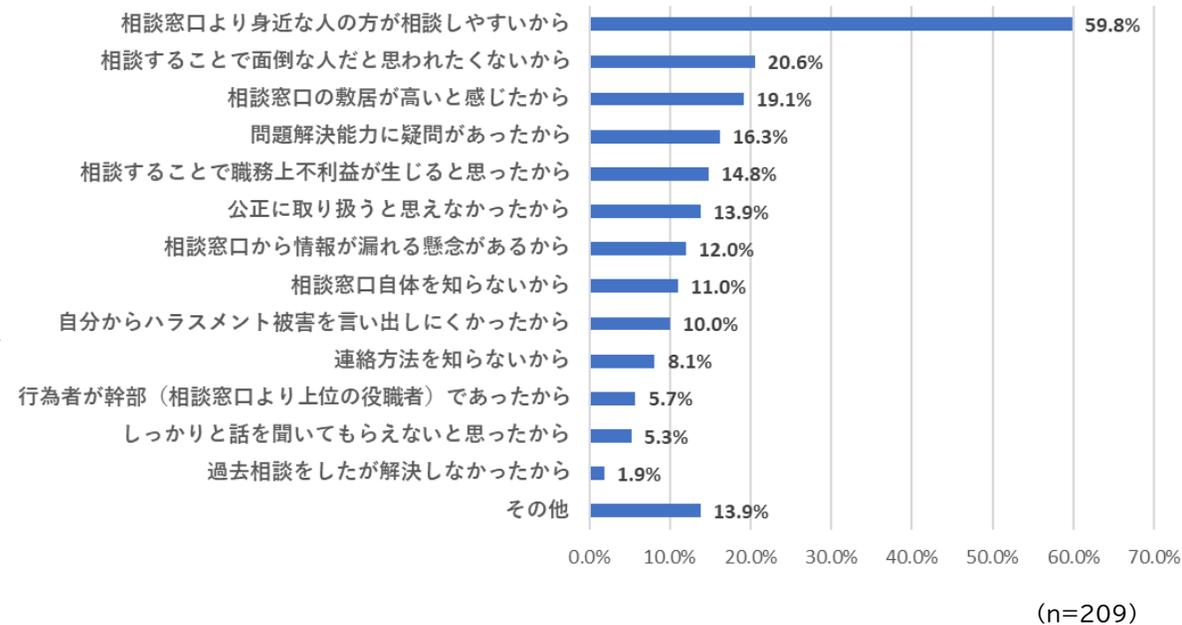


【再掲】ハラスメントと思われる行為を見かけたことがあり相談をした職員の相談先（複数回答）



うち「公務内の相談窓口」以外を回答した者

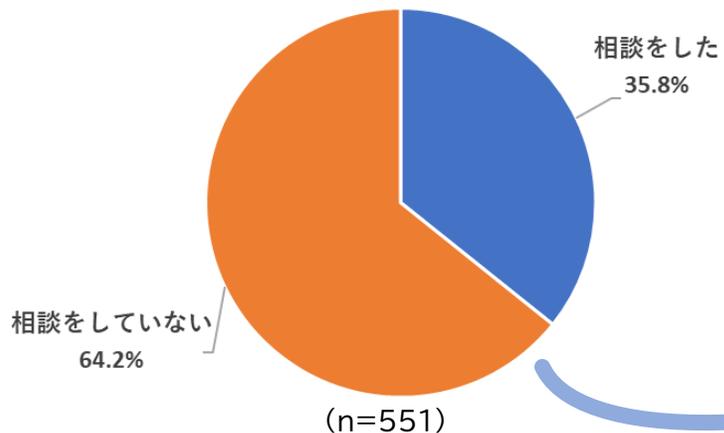
「公務内の相談窓口」を選択しなかった理由は何ですか。（複数回答）



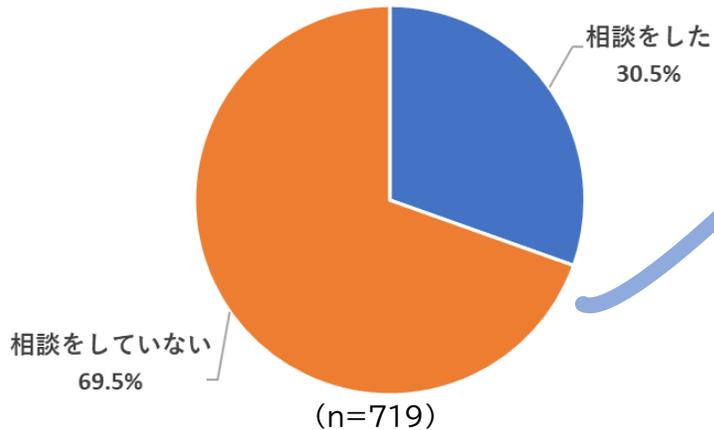
# 5. ハラスメント相談をしなかった理由

「ハラスメントを受けたことがある」又は「ハラスメントと思われる行為を見かけたことがある」と回答した職員のうち、「相談をしていない」と回答した職員が「相談をしなかった理由」は、「相談をしても解決しないと思ったから」(52.2%)が最多。次いで、「相談することで状況が悪くなると感じたから」(36.3%)、「当時は相談するようなハラスメントと捉えていなかったから」(29.2%)が多い。

【再掲】ハラスメントを受けたと感じたことが「ある」と回答した場合、相談をしましたか。

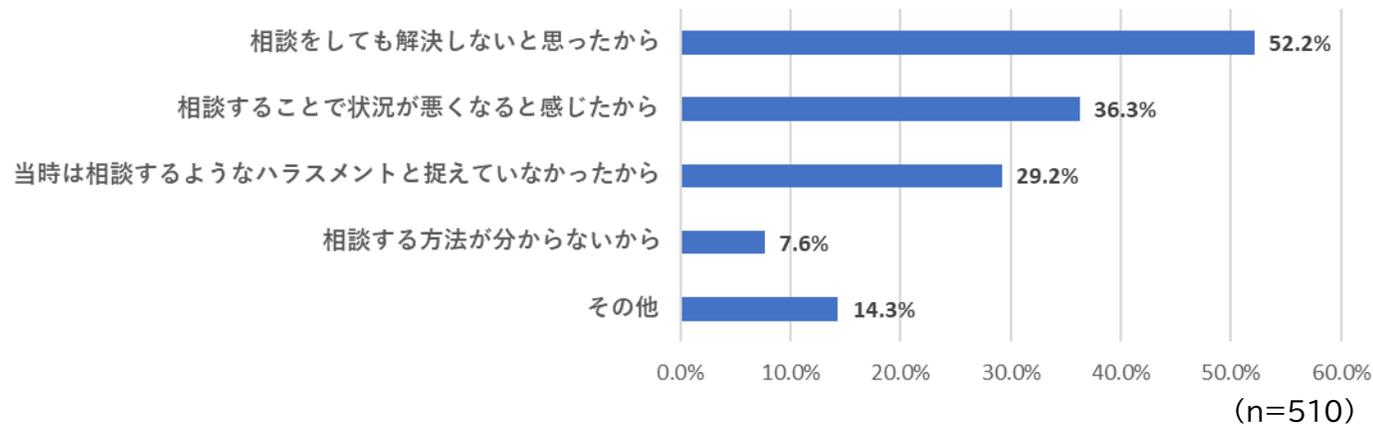


【再掲】ハラスメントと思われる行為を見かけたことが「ある」と回答した場合、相談をしましたか。



「相談をしていない」と回答した者

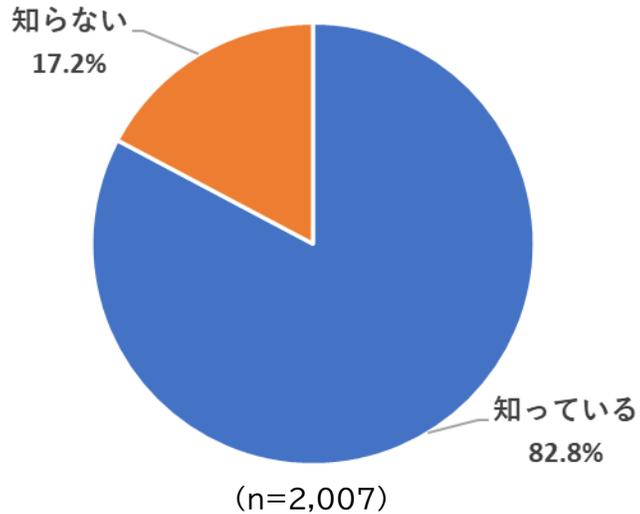
「相談をしなかった」理由は何ですか。



# 6. 相談窓口にご相談しやすくなる工夫

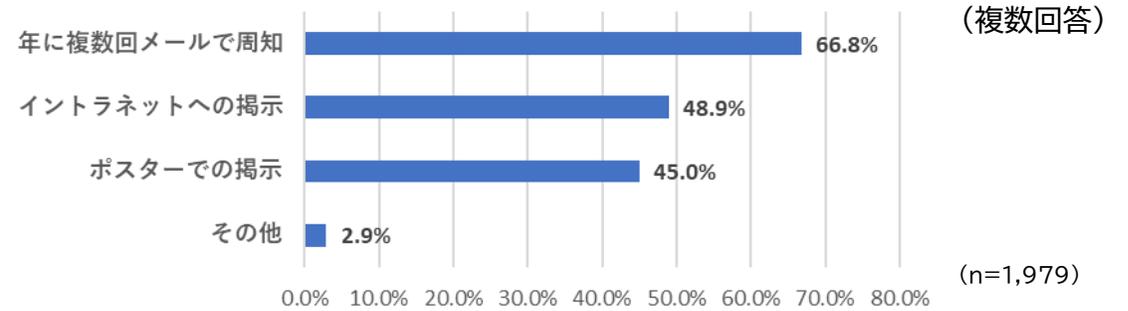
自府省のハラスメント相談窓口を「知っている職員」と回答した職員は、約8割。  
 相談窓口の周知方法として適切と考えるものとしては、「年に複数回メールで周知」が最多。  
 相談窓口にご相談しやすくなると考えられる工夫としては、「相談窓口への相談方法を周知する」が最多。

自府省のハラスメント相談窓口の存在を知っていますか。



【属性別】(常勤職員・非常勤職員)  
 ・常勤職員のうち「知っている」と回答した者は 85.8% (n=1,403)  
 ・非常勤職員のうち「知っている」と回答した者は 75.7% (n=604)

自府省の相談窓口の周知方法として適切と考えるものは何ですか。



ご自身がハラスメントを受けた場合又は見かけた場合に、相談窓口にご相談しやすくなると考えられる工夫は何ですか。

